

多年生 イネ科雑草 防除法や生物多様性学ぶ

第34回芝草勉強会を開催

日栄商事



北陸3県から300人が参加した芝草勉強会＝22日、金沢

日栄商事（本社・金沢市、中村哲郎取締役社長）は22日、第34回芝草勉強会を金沢市の石川県地場産業振興センター本館大ホールで開催した。勉強会には北陸3県からゴルフ場や公園、道路・河川といった緑地等の芝草の維持管理に携わる

事業者約300人が参加。冒頭、中村社長がプログラム内容を紹介した上で、「本日の勉強会が有意義なものとなり、今年も皆様がますます活躍されることを願う」とあいさつ。続いて同社農事部技術普及課の石綿愛里沙氏が「多年生イネ科雑草の防除法」と題して講演。近年、難防除雑草として問題となっているメリケンカルカヤの防除法に、除草剤ではなく抑草剤の「シヨートキープ液剤」を使用した試験事例について紹介。散布時期を最も効果が見込める気温の高い8月に実施した結果、十分な除草効果が得られたほか、芝生への影響もなかったことが確認された。石綿氏は「この液剤は裸地になると危険な法面などに散布すると効果的」と説明。また株化が進んだ個体は、根元のかげムラに注意するようアドバイスした。続いて日産化学緑化営業部技術普及の山岸和宏氏が「殺虫剤の分類と新規作用性を有する殺虫剤について」、小松マテリア技術開発部先端資材グループの米田考志氏が「多孔質セラミックス『グリーンピスカリユ』の土壌改良剤用途の紹介」と題して講演した。最後にマスコミ等で環境科学の普及に力を入れている国立環境研究所生

態リスク評価・対策研究室室長の五箇公一氏が「生物多様性と私たちの生活―自然共生社会をめざして―」と題して基調講演。遺伝子、種、生態系等の階層を包括する生物多様性の意義や重要性、危機的現状について国立環境研究所における研究成果を交えながら解説。「生物多様性は人間社会の多様性にも深く関わり、共生することは人間にとって絶対に必要な行動」と強調した。

©「日刊 建設工業新聞」 発行所 (株) 北陸工業新聞社 (本社：石川県金沢市)

2020年01月23日 012面